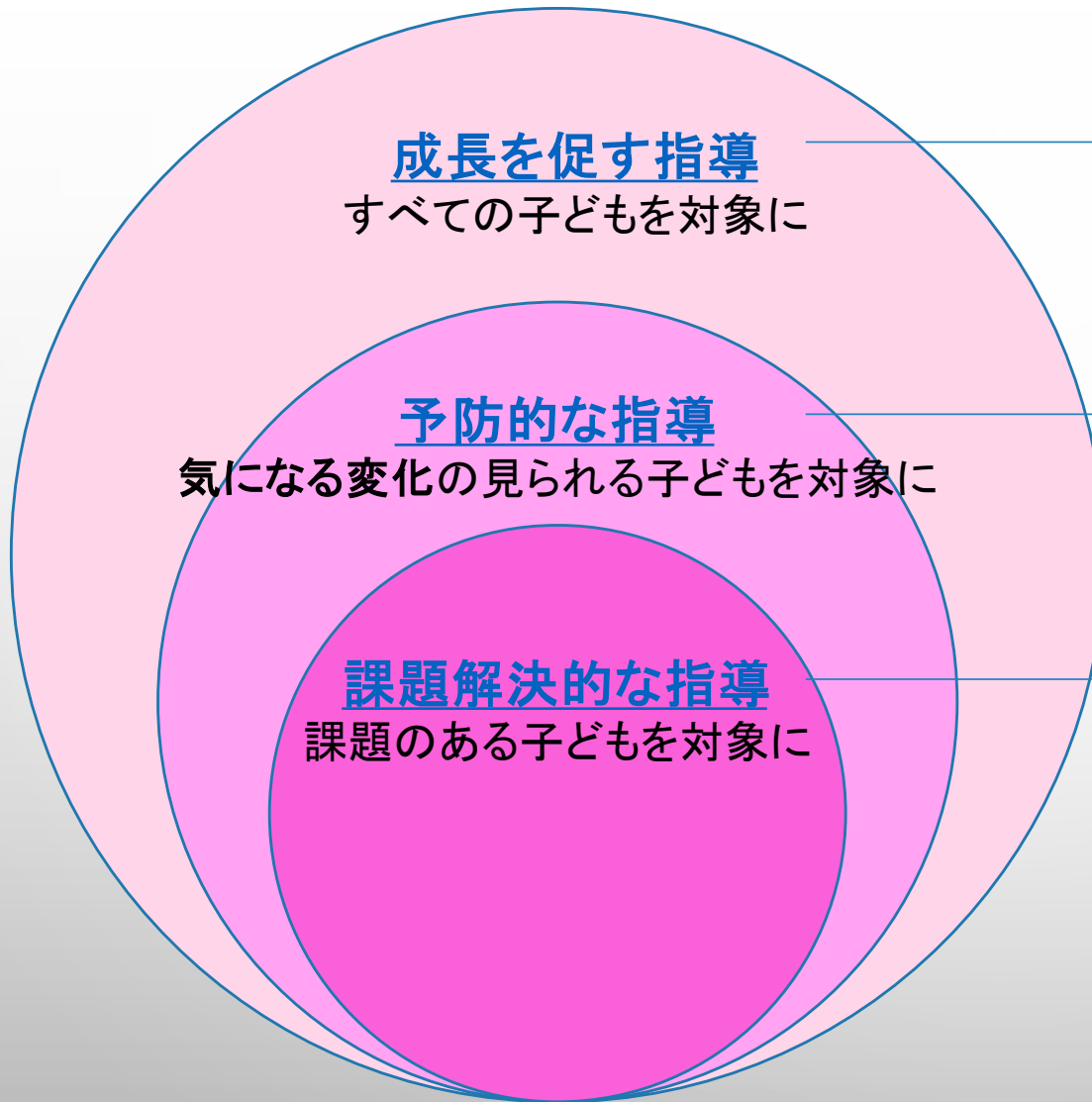


自立を促す生徒指導の推進

新潟市の生徒指導



- ・支持的風土
- ・多面的な児童生徒理解
- ・ルールとリレーション
- ・生徒指導の3つの視点
- ・「振り返り」と「認め合い」

- ・校務支援システムを活用した記録の共有と情報交換
- ・「いじめ・不登校初期対応ガイドブック」の活用
- ・保護者との連携と信頼関係の構築

- ・校内対策委員会
- ・関係機関との連携
- ・行為の指導と行動理由の傾聴

支持的風土の高まり

【新潟市がすべての子どもに付けたい力】

目標に向かって自らの学びを生かしたり、他者と協働したりしながら、様々なことに挑戦し続ける力、また、その過程で自分を振り返り、自分の成長を見出す力

ルール (規範)

教師と子ども
子どもと子ども

多面的な児童生徒理解

信頼関係

- ・子どもをよくみる
- ・子どもの話を聴く
- ・子どもに寄り添う
- ・子どもとかわる
- ・1日1回、笑顔で話しかける、名前を呼ぶ、ほめる
- ・いじめや差別につながる言動を見逃さない

<多面的な理解>

- ・言語による理解(傾聴:教育相談)
- ・表情やしぐさなどによる理解(観察)
- ・保護者や同僚との情報の交流
- ・客観的データの分析と蓄積

児童生徒理解

リレーション (信頼関係)

教師と子ども
子どもと子ども

生徒指導の3つの視点から、すべての教育活動において、「振り返り」と「認め合い」の場を設定しすべての子どもに関わる

予防的な指導 ～ 気になる子どもを対象に ～

○ 欠席日数・欠席原因、日々の観察等の記録

・欠席連絡に敏感になる。

・サインのキャッチと早期対応

○ 積極的な「教育相談」の実施

・日常的な声掛け

・計画的な教育相談

○ 保護者との連携

・こまめな電話連絡

・家庭訪問

○ 関係職員・スクールカウンセラーとの連携

前へ

いじめ・不登校の 初期対応ガイドブック (不登校編)

新潟市は、子ども一人一人の「成長を促す指導」を充実させ、自立性と社会性を育む生徒指導を推進してきました。しかし、近年、いじめの早期解決が困難なケースの増加や、新たに不登校状態を呈する児童生徒の増加が認められます。これらの増加を防ぐためには、「予防的な指導」「早期対応」「積極的な指導」を適切にかつ丁寧に行うことが大切です。いじめ・不登校 初期対応ガイドブックは、各学校がいじめと不登校の初期対応を、適切にかつ丁寧に行うための、「具体的な進め方」の一つとして作成しました。

新潟市教育委員会
平成30年4月

いじめ・不登校の 初期対応ガイドブック (いじめ編)

新潟市の生徒指導は、子ども一人一人の「成長を促す指導」を充実させることで、「予防的な指導」や「積極的な指導」の必要な児童生徒を主な取り組みを実施しています。しかし、近年、いじめの早期解決が困難なケースの増加や、新たに不登校状態を呈する児童生徒の増加が認められます。これらの増加を防ぐためには、「初期対応」を適切にかつ丁寧に行うことが大切です。いじめ・不登校 初期対応ガイドブックは、各学校がいじめと不登校の初期対応を、適切にかつ丁寧に行うための、「具体的な進め方」の一つとして作成しました。

新潟市教育委員会
平成30年4月

課題解決的な指導 ～ 課題のある子どもを対象に ～

トラブル
発生！

丁寧に話を聴く



行為を指導する



即時対応

校内対応ミーティング
具体的な支援策の決定と役割分担



関係機関との連携

教育委員会

教育相談センター

特別支援教育サポートセンター 等

■ 児童生徒を理解するために、特に重要と思われるもの

能力の問題 : 身体的な能力, 知的な能力, 学力

性格的な特徴 : 禁止や叱責が有効なのか, 激励が必要なのか。非行の傾向は？
情緒的に不安定になりやすい性格か？

興味, 要求, 悩み : どのような方面に興味を持っているか。何を要求しているのか。
何に悩みを持っているか。

交友関係 : どのような友人とどのような交際をしているのか(学校内外)。交友関係の中で, 当該児童生徒はどのような位置にあるのか。

その他 : 家族の人間関係や家庭の雰囲気。成育歴。近隣社会の状況。

3つの視点

自己決定の場を設定する

自己肯定感を得られる場を設定する

共感的な人間関係をはぐくむ

成長を促す指導 ~ すべての子どもを対象に ~

支持的風土の高まり

【すべての子どもに付けたい力】

自らの学びを生かしたり、他者と協働したりしながら、様々なことに挑戦し続ける力、
自分を振り返り、自分の成長を見出す力

ルール
(規範)

教師と子ども
子どもと子ども

リレーション
(信頼関係)

教師と子ども
子どもと子ども

多面的な児童生徒理解

生徒指導の3つの視点から、すべての教育活動において、
「振り返り」と「認め合い」の場を設定しすべての子どもに関わる

前へ

TOPへ

「振り返り」と「認め合い」

■ 自分の取組を振り返り成長を実感できる活動

- 成長を実感する自己の振り返りと認め合い
- 取り組んだ過程の振り返りと認め合い

【新潟市がすべての子どもに付けたい力】

目標に向かって自らの学びを生かしたり、他者と協働したりしながら、様々なことに挑戦し続ける力、また、その過程で自分を振り返り、自分の成長を見出す力

ルール
(規範)

教師と子ども
子どもと子ども



リレーション
(信頼関係)

教師と子ども
子どもと子ども

多面的な児童生徒理解

生徒指導の3つの視点から、すべての教育活動において、
「振り返り」と「認め合い」の場を設定しすべての子どもに関わる

8

教育活動

道徳教育・人権教育
同和教育の充実

生徒指導の機能を
生かした授業づくり

他者と協働し課題を
解決する総合的な学習

自分を認め、他者を認める
特別活動

問題行動の未然防止に
つながる教育相談活動

【新潟市がすべての子どもに付けたい力】

目標に向かって自らの学びを生かしたり、他者と協働したりしながら、様々なことに挑戦し続ける力、
また、その過程で自分を振り返り、自分の成長を見出す力

ルール
(規範)

教師と子ども
子どもと子ども

リレーション
(信頼関係)

教師と子ども
子どもと子ども

多面的な児童生徒理解

生徒指導の3つの視点から、すべての教育活動において、
「振り返り」と「認め合い」の場を設定しすべての子どもに関わる

生徒指導の機能を生かした授業づくり

前へ

自己決定の場を設定する

- 自己決定のための情報提供** 考える視点や方法, 調べ方などについて情報を与える。
- 自己決定に向けた活動場面づくり** 気付いたことや考えたことをノートに書かせるなど, 発表や意見交換の前に, 調べたり, 考えたりする時間を確保する。
- 自己決定の場面設定と環境づくり** ペアやグループ, 学級の中で, 自分の考えを発表する場面を設定する。

自己存在感を得られる場を設定する

- 存在感を育む環境づくり** 承認や称賛, 励ましを積極的に行う。
- 個別に存在感を育む場面づくり** 一人一人の良いところを具体的に評価しながら, 計画的な机間指導を行う。
- 仲間と存在感を感じ合うことができる場づくり** ペアやグループ活動等を取り入れ, 協力して活動する中で相互交流を図る。

共感的な人間関係をはぐくむ

- 教師の共感する姿勢づくり** 児童生徒の発言, 発表にうなずきや相槌で応える。
- 仲間との共感的関係を育む場づくり** 相互評価など, 互いのよさを認め合う活動を取り入れる。
- 共感的関係を確認し安心できる雰囲気づくり** 友達の発表に対して, 発表者の方を向いて聞かせたり, 拍手をしたりするような雰囲気づくりを行う。

他者と協働し課題を解決する総合的な学習

■ コミュニケーション力を高める

考えを伝え合い合意形成し、課題を解決する学習により、コミュニケーション力を高めます。

また、外国語などを用いた積極的なコミュニケーションや、道具としてICT機器を用いたコミュニケーションを意図的、計画的に取り入れることも重要です。

■ 社会に開かれた教育課程

保護者、地域、学校が子どもや地域の実態を共有した上で、「目指す子ども」の姿を明らかにします。併せて、地域の課題、地域の願いから学習課題を設定し、地域と協働した学習を展開する中で、目指す子どもの姿に近づく力を育成していきます。

丁寧に話を聴くことが大切

話の聴き方の留意点①

状態を聴く



- 本人・家族・クラス・友人などの状態を聴く
- 一歩引いて全体を俯瞰しながら
- × 過去の例と同じだな、どうせ言い訳だろう

情動を聴く



- 何に困っている？
- その時どう思った？
- 頑張りや努力を聴く
- ※ 言葉だけでなく、目線、口調、態度も注意して感じ取る。

次の一手を一緒に考える

- これからどうしたい？
- 親に話していい？どうしてほしい？
- 明日からのやり方をどう変えていこうか？
- 何を手伝えばいい？

話の聴き方の留意点②

当該児童生徒一人一人とコミュニケーションが取れる職員が面談することが重要。
担任との関係が築けていない場合は、前の担任、学年主任、生活指導主任(生徒指導主事)、養護教諭、教頭、校長等、関係性が築かれている職員が面談する。
校内で対応できない場合は、スクールカウンセラー、SST、SSWへの依頼も検討する。

課題解決的な指導 ～ 課題のある子どもを対象に ～

行為と行動理由は切り分けて指導することが大切

話の聴き方と指導

Relation = 信頼関係

どちらも重要

Rule = 規範意識

傾聴・受容

規範を示す

感情は受容する

感情は受容しても、誤った行動は正す

そうか、それでムカついたんだね。

気持ちは分かったけど、だからといって、殴ってしまったのはよくなかったね。

具体的な支援策の決定と役割分担



【支援策と解消の見極め】

- 解決に向けた手順と方針を決定
- 教職員が共通理解を図る
- 役割分担
- 多方面から情報を収集・整理
- 全体像を把握して対応する

校内いじめ対応ミーティング



【支援策決定のポイント】

より具体的で実現可能な内容にすること

- 何をどのように行うか
- いつ、誰が、どこで、行うか
- いつまでに、どのようなペースで行うか

決して学級担任一人に任せっきりにしない

校内いじめ対応ミーティングメモ用紙は、複数枚印刷してファイルし、教頭先生の机の上を定位置に。

校内いじめ対応ミーティングの際に、教頭先生（不在の場合校長先生）がメモをして、校長先生が重要度を決定する。

段 階 (ステージ)	落ち着かない児童の様子	まわりの児童の様子
1	<p>1～3人</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢が崩れたり，学習道具を出さなくなったりする。 ○ 私語(授業に関係ない話)が目立つようになる。 ○ 席を立ち，特定の児童のところへ行ったり，教室内を歩き回ったりする。 ○ 授業開始時刻に遅れるようになる。 ○ 逸脱行動の理由を他者の所為にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの児童は学習に集中しようとしているが，一部の児童が落ち着きのない児童の動きに関心をもつ姿が見られる。 ○ ほとんどの児童は，落ち着きのない児童の行動を迷惑に思っている。 ○ 注意する児童もいる。
2	<p>4～6人</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 私語や離席が日常化する。 ○ 教室を出て校舎内を徘徊し始める。 (トイレや水飲みから始まり，徐々に行動が広がる) ○ 個々での動きから始まるが，集団化の兆しが見え始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習道具が出ていない児童やルールにルーズな児童が増えていく。 ○ 落ち着きのない児童の動きに関心をもつ児童が増え，同調傾向の児童が出てくる。 ○ しだいに注意する児童が見られなくなる。

3	<p>5, 6人程度の集団化が強まる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 集団の中の1人の問題に, 集団の他の児童が関わり, 常に集団で対抗する。 ○ 集団による教室からの脱出や意図的な授業妨害が始まる。 ○ 集団による担任や学校職員への反抗的・攻撃的な行動が始まる。 ○ 他学級に迷惑がかかる行動が始まる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学級の実組として, よりよい学級にしようとする世論を高めた場合は, 集団と集団外の児童の2つに分かれる。 ○ 実組が十分でない場合は, 学級全体が落ち着かなくなる。 ○ 児童同士では注意し合えない状況となる。
4	<p>集団による学校職員への反抗的・攻撃的行動が強くなる。いじめが起これ始める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 意図的な授業妨害が一層強まり, 学校職員に対しての反抗的・攻撃的態度が強まるとともに日常化する。 ○ 弱い立場の児童や気に入らない児童をターゲットにいじめが始まる。 ○ 学級の児童に限らず, 他学級, 他学年の子どもをターゲットにしたいじめに広がっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 多くの子どもは, いじめの対象とならないよう落ち着きのない集団と関わらないようにする。 ○ 少数ではあるが, いじめをはやし立てるようになっている児童も存在する。 ○ 落ち着きのない集団の中に, 行動に問題を感じその集団から離れたいと思っているが, 自力では離れられない児童が出てくる。